

令和6年度長野県教育委員会主要施策

「個人と社会のウェルビーイングの実現

～一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求できる「探究県」長野の学び～

少子化・人口減少の進行、生成AIの急速な発達と普及、デジタル技術の進展等により、社会の在り方が急激に変化しており、わずか先の未来も予測できない状況にあります。こうした中、未来を生き、未来を創っていく子どもたちが、時代の変化に即しながら、自ら課題を設定し、仲間と協力してその課題を解決していく「探究の力」はますます重要となっています。

第4次長野県教育振興基本計画に掲げる「探究県」長野の学びを具現化するためには、学校が子どもたちにとって安全安心で自分自身を表現できる場所であること、1人ではできない学びができ、発見や驚き、感動に満ちた場所であること、探究心や好奇心の火をずっと灯し続けられる場所であることが必要です。こうしたことを目指して様々な取組を行うとともに、学校以外の学びの場やオンラインなどを安心して利用できるよう、知事部局と連携してすべての子どもたちの学びの場の保障にも取り組んでまいります。

【一人ひとりが主体的に学び他者と協働する学校をつくる】

令和5年度から取り組んできた様々な実証研究などによる効果検証を踏まえ、一つの学校ですべての子どもが、それぞれに合った学びをトータルで自ら選択できる実践校の令和7年度の設置を目指し、カリキュラム等について具体的な検討を行います。また、教員のウェルビーイング向上のため、副校長・教頭の業務を補助する支援員の新たな配置、教員業務支援員の配置拡充、電子採点システムの一部の高等学校への試行的な導入など教員の働き方改革を推進します。さらに、新たな高校づくりを「特色ある県立高校づくり懇談会」での議論も踏まえて進めるとともに、引き続き、県立高校の再編・整備を進めます。

【一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくる】

不登校児童生徒への支援については、取組の好事例等を掲載した冊子「はばたき」を引き続き全県に周知するとともに、教育支援センターの市町村間の広域連携、新規設置や関係者間の連携強化、多様な学び支援コーディネーターの配置等を行います。また、多様な学びの場の整備として、学齢期を経過した者の学びの機会を確保する夜間中学と、学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）について、その併設や新たなモデルを含め、より具体的に市町村との連携・協議を進めます。さらに、特別支援学校の図書館機能充実や、小中学校の通級指導教室の増設等によりインクルーシブな教育を推進するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの増員、LINE相談窓口の充実に取り組みます。

【生涯にわたり誰もが学び合える地域の拠点をつくる】

県立学校と地域をつなぐ連携コーディネーターについては、新しいモデルとなる高校を指定して配置を行うなど、学校と地域との一層の連携を図ります。また、コミュニティスクールの今後の方向性について引き続き検討を行い、地域の学校運営参画と協働活動のさらなる発展を目指します。さらに、「市町村と県による協働電子図書館“デジとしょ信州”」について、特に学校教育との連携や多様な学びの場における活用の検討、読書バリアフリーの更なる推進、地域資料の充実に取り組みます。

【文化芸術・スポーツの身近な環境を整え、共感と交流が生まれる機会をつくる】

学校部活動の地域クラブ活動への移行支援等に引き続き取り組みます。なお、教育委員会で所管していた文化財行政、学校体育を除くスポーツ行政が知事部局に移管されますが、いずれも教育委員会との関連が深い分野であり、今後も知事部局と連携して取り組みます。